

# 令和5年度 学校評価 要旨

小中一貫校 南アルプス市立甲西中学校

## □ Google Forms の利用、及びに通年での評価実施に関わって

○回答と集計にICTを活用・2期制を通年1期での評価に切替（精選）

→ 業務量の大幅軽減（ICTの活用は昨年度より）

○保護者アンケートの紙面による回答11件（昨年26件）・全体の約4%（昨年10%）に減少

→ 保護者も概ね対応できる状況

▽保護者で重複回答が9件、それぞれの回答内容に違いが認められた

→ タイムスタンプの遅い（新しい）データを採用・他方は削除

▽2期制を通年1期での評価に切り替えて実施

→ 判断基準の点で、回答結果に多少なりとも影響を与えている可能性（推測）

## □ 教職員自己評価の考察に関わって

○全27項目が、3.0以上のA判定となり、肯定的な回答も85%を上回る結果

[100%：18項目（昨年比+2）、92~96%：7項目、90%未満：2項目] ※概ね良好と判断

▼3.5未満の項目（※A判定ではあるが、やや低めであると判断）が14項目

[3.4：4項目、3.3：5項目、3.2：3項目、3.0：2項目]

○昨年比で評価の向上（↑）した項目（5項目）

[0.1↑：3項目、0.2↑：1項目、0.4↑：1項目]

▼昨年比で評価の低下（↓）した項目（12項目）

[0.1↓：8項目、0.2↓：3項目、0.3↓：1項目] 残りの9項目は同等（新規項目を除く）

## I 学校経営・組織・安全管理 7項目中4項目が肯定的回答率100%、96%・93%・85%が各1項目

2 「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」…3.4（やや低め）昨年同

□（改善が図られてはいるが）職員の入れ替えもあったため、情報共有や連携の機会に要配慮

5 「個人情報の適切な管理・保護」…3.5 昨年比0.2↑

□資料のデータ化・生徒の職員入室制限などにより、少しずつ改善

7 「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」…3.0 昨年比0.2↓ 肯定的回答率85%

■勤務時間に対する意識の高まり（勤務時間外在校時間：平均80時間超/月 → 0名）・  
新校務支援システムへの順応も認められるが、業務自体は大きく軽減されていない・部  
活動の地域移行も遅延の状況にあり、職場内だけの改善には困難さも感じられるが…

□より柔軟な勤務体制の継続と進展 □協働（チーム）的な取り組みと行事や業務の精選

□一層スマートな学校運営に向けた工夫や改善による多忙感の解消

### 【多忙化（感）解消に向けた具体的取り組み】（案）

○計画的かつ柔軟な年休取得と勤務時間管理（定時退勤の勧めなど）

○朝の打合せ削減（月曜設定の終礼に移行）による朝のゆとりの確保

（現状では困難であるが、ゆくゆくは時差出勤も検討対象か…）

○チームとして協働的に取り組むことによる個人的な負担感の軽減

○教育活動全体を視野に入れた、行事等における内容や方法の精選及び時間的削減

（夏季休業中のPTA奉仕作業を地域クリーンアクションに移行…R5より実施）

○日課時程の見直し（清掃の頻度や時間帯の再検討など）

○ICT等を活用したスマートな連絡・報告体制やデータ管理の工夫

○仕事の優先順位を意識した業務改善（各個人） など

## II 教育課程・学習指導 4項目中3項目が肯定的回答率100%、1項目が92%

10 「道徳の授業の充実と日常的な道徳教育の実施」…3.6 昨年比0.1↑ 概ね良好

※3年ぶりに道徳講演会（大明小合同）を開催（R6は、甲西中出身の和太鼓奏者を予定）

11 「GIGAスクール構想実現に向けた端末の積極的利用」…3.3 昨年比0.1↓

- 端末の利用は、様々な場面でかなり定着しているが、授業での利用には個人差が
- 互いに授業を見合う機会などを積極利用して、力量を高める
- 教師用端末の確保・ネットワーク環境（表示装置含む）の整備 → 市に要望済
- [日本語指導の必要な外国籍生徒への対応]
- 実態に即した個別の指導計画の充実と関係機関と連携した支援体制の確保

### Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育 7項目全てが肯定的回答率 100%

- 13 「いじめの早期発見・早期解決に向けた取り組み」…3.6 昨年比 0.1 ↑ **概ね良好**  
○ 生徒指導部会を軸とした情報共有・「甲西っ子調査」を受けての二者面談など丁寧な対応
- 16 「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」…3.3 昨年比 0.1 ↓  
□ 生徒の自主性尊重は大切だが、任せきりにしない → **模範・支援者としての立場を**
- 18 「特別支援教育についての共通理解と個別の支援計画による手立て」…3.3 昨年比 0.1 ↓  
□ 生徒の将来を見据えた教育的支援や指導を一層充実させていく  
[生徒指導全般に関わって]
- 家庭要因を抱えるケース増  
○ 教育相談担当をコーディネーターに、**SCや子ども家庭相談課・児童相談所等との連携、校内支援委員会を通じた職員全体での情報共有と支援策の検討、SSWとも連携を密に**
- 中1ギャップが顕著 ○ **小学校との連携による具体的な対応**検討（小中一貫教育の推進）

### Ⅳ 特別活動 4項目中3項目が肯定的回答率 100%、1項目が 96%

- 20 「部活動の主体的・意欲的な取り組みと運営の工夫」…3.3 昨年比 0.2 ↓  
■ **部活動地域移行の進行状況**が滞っており、運営に戸惑いが出てきているのではないかと
- 21 「合唱活動の推進と心の教育・集団づくり」…3.6 昨年比 0.4 ↑ **大幅に向上**  
○ 活動の機会が確保された ○ 学期末の合唱発表会開催（多くの保護者が参観）
- 22 「あいさつができる生徒の育成」…3.2 昨年比 0.1 ↑  
○ 市内一斉あいさつ運動 → 各小学校に出向いて実施（コロナ禍で3年ほど実施できず）  
□ **小学校との連携**（小中一貫教育の推進項目に）・**児童会と生徒会の連携**  
[特別活動全般に関わって]
- コロナの影響が後退し、**活動や行事が従来のかたちに戻りつつある** → **業務改善も考慮し、活動の本質を見つめ、今後の計画と実践に結びつけていく（精選と業務改善）**

### Ⅴ 保護者・地域連携 1項目が肯定的回答率 96%、他方は 100%

- 23 「保護者との相互理解と連携」…3.3 昨年比 0.3 ↓  
■ 「学級通信がサボりがちに」といった理由も挙げられてはいるが  
[今年度2学期までの保護者の参観（来校）数]

・1学期授業参観 212名 ・中巨摩総体壮行会 70名 ・1学期合唱発表会 78名 ・新稲祭文化の部 198名 ・新稲祭体育の部 273名 ・中巨摩新人大会壮行会 26名 ・道徳公開授業参観 113名 ・2学期合唱発表会 60名 （家庭で複数来校の場合も含む）
--

- 24 「情報提供」…3.5 昨年比 0.1 ↓  
○ 学年・学級のたより等による周知、学校メール配信により、逐次情報の共有  
○ 電話音声ガイダンス設定時間帯の緊急連絡 → メールによる対応  
○ 朝の欠席等の連絡 → 電話連絡とフォームによる受付を併用  
○ 学校ホームページ → 改善と逐次更新（閲覧者 10万5千程度/10日現在）

### Ⅵ 小中連携 肯定的回答率は、96%・92%・88% いずれも 3.2 以下

- **研究組織の改編** □ 基本となる生活規律や学習習慣に着目、**中1ギャップの解消に向けた小中連携の推進**が喫緊の課題

## □生徒・保護者アンケートのまとめに関わって

### 生徒アンケート 回答260名（回答率86%）

- 23項目（携帯電話に関する項目を除く）中21項目はA判定、B・Cが各1項目 ※概ね良好か
- 昨年比で数値の向上：1項目（0.1↑）、低下：10項目（9項目0.1↓、1項目0.3↓）  
※低下の要因として、コロナによる制限の緩和・学校評価の通年での実施による判断基準の変化も影響か（推測）
- A判定のうち、3.6以上の高い数値となった項目  
①「学校生活が楽しい」 ⑧「清掃活動への取り組み」 ⑩「家庭や地域でのあいさつ」  
⑫「公共物の扱い」 ⑬「心身の健康や安全」 ⑭「いじめにつながらない生活」  
⑮・⑳「生徒会活動への取り組み」 ⑰・㉑「部活動への取り組み」 ㉒「学校環境」
- B・C判定の3.0未満の低い数値となった項目 ※昨年と同様の傾向  
④「自宅での読書状況」の項目は2.3でC判定  
※定期的な図書日より発行・様々な企画による読書活動の推進・貸出数5,300冊（2学期まで）  
⑤「テレビやスマホなどのけじめ」の項目は2.9でB判定
- 「携帯電話の所持率」90%（昨年比1%↑）／「ルールづくり」68%（昨年比2%↓）  
※1年生の所有率が大幅増・SNS等の利用によるトラブルには、今後も一層留意が必要
- 自由記述の質問「甲西中の『良いと思うところ』『誇れると思えるところ』」で、多かった回答は「あいさつがしっかりできる」（昨年同様）に続き「誰とは関係なしに仲が良い」

### 保護者アンケート 回答263名（回答率87%）

- 22項目（携帯電話に関する項目を除く）中15項目はA判定、B判定5項目、C・Dが各1項目
- 昨年比で数値の向上：なし、低下：15項目（14項目0.1↓、1項目0.2↓）  
※低下の要因として、生徒アンケート結果と同様な点（判断基準の変化）が推測される  
※低い数値の示された項目のうち、授業改善や工夫・学習習慣に関わる内容は、要注力
- B判定の項目 ②「授業の理解」 ⑤「家庭学習の状況」 ⑥「家での整理整頓」  
⑮「授業の分からない生徒への配慮」 ㉑「小中一貫教育の取り組み（認知度）」※新規項目
- C判定の項目 ④「テレビやスマホなどのけじめ」、D判定の項目 ③「自宅での読書状況」  
※概ね昨年と同様の傾向・生徒アンケートと一致して低い傾向

### 生徒アンケートと保護者アンケートとの比較

- 項目全般にわたり、生徒の回答に比べ保護者の回答が、低めの評価となる傾向
- 項目によっては、両者の回答に認識の違い（認識の差が大）  
※保護者（家庭）には、学校の様子や状況を、より丁寧に伝えていく必要性
- 携帯電話・スマートフォンのルールの作成率 → 生徒と保護者の回答に大きな開き  
※保護者はルールを決めているつもり / 生徒はルールに対して意識の薄い  
（昨年と同傾向だが、その差が拡大）

### 参考【家庭からの要望に応えた事項】（R4～R5）※日々の連絡帳や三者懇談を通じて…

- 自転車中学の許可範囲拡大（2km → 1.5km以上・再度検討の可能性も）  
[自転車置き場にサイクルスタンド設置：最大144台駐輪可]  
…登下校時の送迎負担解消・下校時の熱中症対策（夏季）／防犯対策（冬季）
- 通学用靴の色の制限解除  
…白 → 色の制限なしへ ※現状、約7割は白以外の靴を着用